

「住吉の語り部になりたい」 シリーズ第6回

料亭つたも主人・深田正雄

2011年9月25日

タバコ屋のよねちゃん 住吉神社石柵寄進者より

前々回キャバレーミカドで一世を風靡した山田泰吉翁、今回は“世界最高齢の富豪”古川為三郎翁をご紹介します。終戦後、この偉人2人とも頭が上がらない名物姐さんが住吉1丁目に頑張っていました。その人は大正6年生まれタバコ屋の平尾米子さんです。間口が1間少々で北側に専売公社の懐かしいガラスカウンター、南には小さなティールームで、いつも「よねちゃん」は番台に座って住吉の煙草屋の看板娘??を任じていたようです。

広小路から最初が郵便局、住吉小路、住吉ホテルの南、3軒目間口が狭く奥行きの長い鰻の寝床で住居兼用。三業者の街の入り口にある観光案内人として、大活躍！戦後、町に遊びに来た客はタバコや菓子を買いつつ、よねちゃんから情報収集、どこが美味しいか、安いか、可愛い子は、サービスは？生涯独身、噂話が大好きなカシマシおばさん、嫌われたら何をいわれるか、住吉の商人は戦々恐々としていたようです。筋向いのキャバレー赤玉・山田泰吉さんも、隣の住吉ホテル・フルタメさんも必ず立ち寄りコーヒーをすすりながら、社員や町内の情報をよねちゃんから入手、経営戦略の一助としていたそうです。

昭和35年頃、栄北（現在・JPR名古屋栄ビル）にあった大和銀行名古屋支店の多田甚作さんはよねちゃんから紹介を受け、山田翁や古川翁宅に日参、大口の新規取引となり、役員候補までいったとか？葛茂の祖父、良矩も兎に角、よねちゃんから依頼されたら、何でもお役に立てるべくフォローしていたようです。そういえば葛茂社員の給与振込みや財形貯蓄も全てりそな銀行となっています。

フルタメパチンコの景品交換のみならず、進駐軍からもらうチップを集めて、正雄君も1ドル400円でヤミ両替の記憶もあります。住吉町のミニバンクでもあったようです。よねちゃんのティールームで、正雄君はハイカラのオランダ製バンホーテン（VAN HOUTEN）ココアをご馳走になっていました。お礼に葛茂の調理場からお惣菜をお返しておりましたことは自明の理といえましょう。祖父良矩ですら、こんなよねちゃんには住吉社寄進の願いはできないようでした。

よね子さんは数年前に逝去され、跡地にはタバコの自販機が3台も横並び、2階には間口一間くらいのブティックがテナントして営業されています。



(祖父・良矩とよねちゃん：おふざけ中)

(タバコ屋跡地には煙草自販機と2階にブテック)

住吉神社・外柵石柱寄進者リスト 北側奥、西の石柱より

初政・森初一：下之一色の大手鮮魚商、戦前から業務用魚屋として町内で出入りし3丁目に住居を構える。蔦茂の取引も多く、正雄君は幼稚園の頃から、毎年、祖父と下之一色の花火大会に招待され美味しい魚をご馳走になりました。そういえばタバコ屋のよねちゃんも一緒しておりました。織田家家臣森蘭丸の御一党とのこと??

10年ほど前までおばあちゃんが健在で在住、現在はまんが喫茶壱熱帯。(栄3-11)
お孫さんの森保憲さんは近くのマンションに在住され、栄ミナミ地域活性化活動に熱心。

有本 富夫：古川鞆店の南店舗、「割烹有本」。御主人は蔦茂料理人OBで戦後引揚げ時には祖父の口利きで清須の平松豊助商店の未亡人さわさんをお願いして、栄町東南（現三越）にてヤミ商売で天ぷら屋台を営んでいたとのこと。その後、独立して料理店経営で繁盛、そして、西浦温泉開発とともに大きな温泉旅館有本を開業された事業家です。現在、千種区日岡町の「うなぎ有本」の元祖です。

うを与・岩井正夫：住吉一丁目南東角、魚メインの居酒屋、現在は息子さんが大文字ステーキという焼肉屋さん。現在、3階以上住居として賃貸され一丁目で唯一、居住者のいる建物。可愛いお嬢さんは深田正雄と白川幼稚園、栄小学校と同期生。元気かな??

次号に続く